

アニマルランド NEWS

わんぱーくこうちアニマルランド
№95 Apr 2019

退任のご挨拶
ハズバンダリートレーニングによる健康管理
カモシカの現状とテナアの成長
タローの歴史

1月から3月

- ～2/5 えと展 開催
- 1/2, 3, 2/11, 3/18 裏側探検隊 開催
- 1/19 コールダック フ化 2羽
- 1/26 日本クマネットワークシンポジウム 参加
- 2/1 合同避難訓練 実施
- 3/17 ネイチャーゲーム 開催
- 3/22 動物園・水族館大学 参加
- ～4/10 わんぱーくこうちまつり
- 3/30 タテガミヤマアラシ マサキ 搬出



コールダックが生まれました



1



3

1. 卵をあたためている親鳥 箱を持ち上げても、ずっとあたためています
2. ふれあいデビューしたヒナ
3. 現在は親より少し黄色っぽい色をしています

たくさんの方が参加してくださいました



合同避難訓練

南高校の屋上まで、避難しました



ネイチャーゲーム

のできごと



ジャガーのハケ

沖縄こどもの国へ移動することが決まりました。4月7日のワンポイントガイドでお別れ会を開催します。



浸水対策の棚

トラ舎に避難用の棚を設置しました

動物園水族館大学



動物園・水族館の置かれた現状
欧米と日本の違いとこれからの課題

2019年3月22日
動物園・水族館大学

本田 公夫



京都市でおこなわれた動物園水族館大学に参加しました。
わんぱーくからは郷土産野生動物の保全についてポスター発表をしました。

伊豆アマルキングダム
移動しました。



タテガミヤマアラシのマサキ





退任のご挨拶



渡部 孝 園長 (3月31日付 退任)

動物園ちやくにんに着任したのは、35年前になります。大学卒業にあたりどうしても動物園の獣医師となりたく採用情報を捜し、運よく採用になったのが高知市立動物園でした。埼玉県で育ち、神奈川県あこがの大学に通っていたこともあり、採用試験で訪れたのが人生はじめての四国入りだったのです。運よく現役で憧れの動物園獣医師となれたわけですが、当時はわんぱくこうちではなく高知城にあるコンパクトな高知市立動物園でしたので、現場職員は全員で5名、そのうち獣医は自分1人だけという状況てさぐでした。大学で学んだのは、いわゆる牛馬豚犬が主体でしたので先輩獣医のいない環境で全くの手探り専門書頼りの日々となったのは言うまでもありません。そうした中、近畿地区において定期的に動物園水族館獣医師の勉強会が行われていることを知り、開催場所の大阪市天王寺動物園こうきゆうに公休を利用して通い、多くのことを学ばせていただきました。その後、中国四国ブロックにおいても同様の勉強会を立ち上げ、先日アニマルランドで第56回目を開催し20名以上の参加のもと活発な討議とうぎが行われました。これからもぜひ続けていってほしいと思います。

1993年に動物園は移転し、わんぱくこうちアニマルランドとしてオープンしました。日々の動物園の仕事である傷病野生鳥獣しやうびやうやせいちゆうじゆうの保護治療や一般の方からの問い合わせ、また、市町村や研究機関からの各種協力依頼などを通じて、我々職員が地域の野生動物の生態を知らなければ適切な対応ができないことを感じるようになりました。また、動物園の目的の一つである種の保存の意義は、地域の野生動物の現状を用いて伝えるのがより効果的であり、そのための調査研究を展開していくことが大切であると考えようになりました。こうした中、環境庁委託業務かんきやうちゆういたくぎやうむとして高知県が行ったニホンカワウソ一斉濃密調査いっせいのうみつちゆうさに、職員全員が公務として参加させていただきました。そのフィールド調査の経験が、現在のアニマルランドのスタイルを形成したといっても過言かごんではないと思います。また、当時オオイタサンショウウオとされていた高知県個体群について絶滅から救うことを動物園の業務として位置づけ、生息地の保護保全活動を主とした調査研究を2000年より開始しました。これらの活動と並行して生息域外保全活動せいそくいきがいほぜんかつどうにも取り組み、3世の繁殖にも成功し現在200個体以上を飼育しています。そして、地元において保護保全をさらに進めるための提案が実り、2017年に土佐清水市の天然記念物に指定されました。2018年には、研究者や大学との共同研究によって新種として認められトサシミズサンショウウオと命名され、2019年2月には環境省の国内希少野生植物種にも指定され保護の体制が強化されました。

アニマルランドは今春26周年を迎え、施設のリニューアルも考えはじめる時期に差しかかっています。トサシミズサンショウウオの活動の経験から、アニマルランドで飼育している世界各地の動物について、飼育する意義や役割を生息域内及び域外保全の観点から考える基盤きばんが築かれていると思います。この根幹こんとなる精神を大切にするとともに、10周年記念施設「カモシカ村」の経験を活かしながら、飼育動物をとおして本来の生態を伝えられる施設となるよう発展していってほしいと願っています。4月からの新体制によるアニマルランドの活躍を心より祈念きねんいたしております。長い間、本当にお世話になりました、ありがとうございました。



ハズバンドアリー トレーニングによる 健康管理

最近では「ハズバンドアリートレーニング」を取り入れている動物園水族館が多く、アニマルランドもそんな動物園の一つです。あまり聞きなれない言葉かもしれませんが、動物園が好きな方は聞いたことがあるのではないのでしょうか。

ハズバンドアリートレーニング（以下：ハズトレ）とは、「動物が心身ともに健康に、動物も人も安全に飼育するための訓練」のことで、

動物園動物たちの健康診断は捕獲したり麻酔をかけてから、触診や体重測定・採血などを行うのが一般的で、動物への負担がないとは言えませんでした。ハズトレは、動物自らの意思で体重計に乗る、手を出してもらい爪切りをする、口を開けてもらい口の中をチェックする、腕や尾を出してもらい採血をするなど、様々なことを無麻酔でできるようにするトレーニングです。行動分析学に基づいておこない、体罰は一切与えず、ご褒美(エサ)を与えながら動物たちに目的の行動をとってもらいます。なおかつ動物と人との間には格子があり、動物も人も楽しみながら安全に健康管理がおこなえるという、動物福祉に配慮した健康管理法の一つなのです。

アニマルランドでは現在、チンパンジー・エリマキキツネザル・ワオキツネザルでハズトレをおこなっています。チンパンジーでは、握手・口をあける・足を出す・背中を見せる・お尻を見せる・体温を測る・爪を切るなどができます。

エリマキキツネザルでは6頭中5頭で体重測定、4頭で採血ができるようになりました。この採血は、人間が採血をするときのような形で腕を出してもらいおこないます。腕を出してじっとしてもらうために、採血装置も自作します。採血装置といっても、どのくらい腕を出してもらえば良いかわかりません。ちょうど良い長さに腕を出してもらえよう何度も試行錯誤しながら採血装置を作りました。ワオキツネザルは格子側面に体を寄せてもらい、格子から尾を出し、尾の付け根から採血します。現在1頭で針を刺すところまでできるようになりました。

ハズトレは健康管理には欠かせない訓練ではありますが、万能ではありません。時には捕獲することも必要で、すべてがハズトレでうまくいくわけではないのです。たくさんある健康管理の一つに過ぎませんが、今までわからなかった血液データを得ることもできます。これを蓄積することで、健康管理はもちろん、今後の研究にも役立てることもできます。

トレーニングは日々根気よく続けることで、動物たちに目的の行動をとってもらうように訓練を重ねていきます。思うようにうまくいかないことが多いですが、動物にやさしい飼育管理法なので、今後もトレーニング技術を磨き動物福祉に配慮した飼育管理ができるようにしていきたいです。（門谷真奈）



ワオキツネザルの尾から採血



チンパンジーの爪切り

カモシカの現状と テナアの成長



母親のアヤと
左がテナア

ニホンカモシカは 1955年に国の特別天然記念物に指定され、保護対象の動物です。本州四国・九州に生息していますが、研究が進み四国に生息するものは、本州のものと区別して扱われています。2010年と2011年の特別調査では、四国のニホンカモシカは推定1600個体ほどと報告され、保護活動が進められています。

アニマルランドでは、四国産ニホンカモシカの今後を懸念し1997年より飼育を開始し、飼育下での保護活動を行っています。そんな中、昨年^{けねん}に続き今年も子供が生まれました。テナアです。

私がニホンカモシカの担当を始めたころは4~5個体の飼育でしたが、現在は8個体となり、のんびり暮らしているカモシカたちとは違って、日々の飼育業務はてんでこ舞いです。

昨年の8月10日に生まれたテナアは、産まれたときは2600g程しかなく、一昨年生まれたハツヤと比べると500gも小さく産まれましたが、母親のアヤの子育てが上手なのか、乳もよく飲み、今では親と同量のエサを完食するほどです。ハツヤとは、テナアと同じく、アヤとテツの間に生まれた1歳年上の兄です。

テナアも生後半年を過ぎ、現在はアヤから乳をもらうこともほとんど見られません。母親と比べると一回り小さく、担当者からするとまだまだ幼さの残るテナアですが、角もはつきり見えるようになったためでしょうか、来園者からは、子供がいらないといわれることもしばしばです。神経質な母親のアヤとちがいで、テナアはだんだんと私たちに慣れてきてくれました。たとえば、エサを入れるとき、今まではアヤの後ろに隠れながらエサに近づきたべていました。最近ではアヤの動きにかかわらず、さっさと餌を食べ始めることもしばしばです。また、夕方寝室へ収容するときは、アヤが私たちに避けるように、そそくさと寝室に入るのに対して、テナアは寝室を出たり入ったり、遊び始めるのです。

担当としては、今後テナアが体調を崩す^{くず}などのときに処置することを考えれば、慣れてくれることはとてもうれしい事です。しかし夕方にそれをされると、暗くなってしまい十分な掃除ができないためとても困ります。遊び盛りど真ん中のテナアには、理解してもらえないでしょうけど…。 (山崎博継)



生後10日



生後半年



船の上で

長老タローの歴史

現在のタロー



アニマルギャラリーのチンパンジー舎の前には個体情報（けいじ）が掲示してあります。その中のタローの掲示（おどろ）を見て驚く方がたくさんいます。「1963年生まれ？え？ 自分より年上だけどいくつ？」と聞こえてきます。タローは今年で推定56歳になりました。日本で飼育されている307個体中3番目の長寿で、オスとしては1番となりました。アニマルランドでも最長老の動物です。タローの生涯（しょうがい）はどんなものだったのでしょうか？

1964年頃、アフリカのシェラレオネの港で、赤ちゃんのタローは売られていました。チンパンジーは肉をとるために現在でも密猟（みつりょう）されています。子どもは小さいので食べる場所は少ないですが、ペットとして売られることがあります。親を殺された子どもチンパンジーの多くはとても弱っています。そんなタローをかわいそうに思った日本の船員さんが、タローを日本に連れて帰りました。現在では、国際条約等があり、野生のチンパンジーを連れ帰ることはできません。時代を感じるお話ですね。

しばらくの間、船員さんの家で家族の一員として大切に飼育されていました。しかし、チンパンジーを家庭で飼いつづけることはできません。2歳のころに東京都多摩動物公園で飼育されることになりました。そのころ多摩動物公園ではチンパンジーのショーがおこなわれていました。タローも、そのショーに出演しイスに座って人のまねをするなどの芸をしていました。チンパンジーはとても力の強い動物です。成長すると危険なためショーに使えなくなります。タローも8歳になるころにショーを引退しました。多摩動物公園ではショーをする個体とは別にチンパンジーが暮らす、チンパンジー村という施設がありました。タローもそこで暮らすことになりました。

チンパンジー村にはジョーというボスチンパンジーがいました。タローは成長するとジョーに戦いを挑むようになりました。タローもジョーも傷だらけになったそうです。そのころ、お城の動物園（高知市立動物園）では、これもまた船乗りさんに連れてこられたミミというメスのチンパンジーを飼育していて、オスをさがしていました。タローには欠点がありました。交尾ができなかったのです。チンパンジーのオスは子どものころから交尾の練習をします。まだまだ、小さい2,3歳のころです。3歳を過ぎると実際に年上のメスと交尾をします。交尾をおぼえる大切な時期にチンパンジーの中で暮らしていなかったため、タローは交尾ができませんでした。1978年、若いタローがメスと静かな生活をしたら交尾ができるようになるかもしれないと、お城の動物園にやってきました。しかし交尾ができるようになることはありませんでした。

1993年、わんぱくこうちが開園し新しいチンパンジーがやってきました。ミミはコータとの間にヤマトを生みました。タローは新しいオスのコータとも戦いをし、ケガをすることもありました。現在では他のチンパンジーに戦いを挑む（いじ）気持ちはすっかりなくし、仲の良いヤマトと一緒に暮らしています。朝、個室の寝室から出ると、エサも食べずにヤマトと「はっはは」と笑い声を上げながら追いかけて遊ぶこともあります。歯がすり減り、短くなってしまいましたが、若いころと同じ食べ物を食べることができています。

野生のチンパンジーは、生息地（かんきょうはかい）の環境破壊のためどんどん数を減らしています。現地でも国際的にも保護されていますが、絶滅（ぜつめつ）が心配されるところまで来てしまいました。世界の動物園では、飼育下で繁殖させ、チンパンジーを守ろうとしています。できるだけ人工哺育はおこなわず、群れの中で成長できるようにすること、ショーやエンターテイメントに出演させないこと、野生に近い群れの構成で飼育することなど、チンパンジーがチンパンジーらしく生きられるよう配慮（はいりょ）するようになっています。

タローは人とチンパンジーのかかわりの歴史を体現する存在です。日本で暮らすようになったタローの老後が、少しでも幸せになるよう飼育していきたいと思います。
（久川智恵美）

あにまるきゃっち★ №27



ふれあい広場でウサギをさわっている4人組を
キャッチ☆

左から

北本 ^{その}想乃ちゃん(8歳)

^{もなみ}百奈望ちゃん(4歳)

西岡 ^{えま}愛真ちゃん(8歳)

^{ゆうま}佑真くん(6歳)

高知市からのご来園です。

想乃ちゃんと愛真ちゃんが同級生のなかよしさん。
春休みを二家族で楽しんでいただきました。

4月から9月のイベントとお知らせ

4月7日(日)まで 開催
わんぱーくこうちまつり
7日(日)はイベントもりだくさん♪

4月29日(日) 9:00より受付開始
第22回 カブトムシの飼い方教室 開催
先着150名様 対象12歳以下 参加費無料
9:10・9:40・10:10の3回に分けておこないます

7月14日(日)
カブトムシすもう大会

7月29日(月)、30日(火)
サマースクール 開催

7月18日(木)～9月3日(火)
夏の企画展開催

9月16日(月・祝)
敬老の日イベント 開催

4月14日(日)、6月2日(日)、7月7日(日)

8月11日(日)、9月15日(日) 14:30～

5月3,4,5,6日(祝・日) 13:30～

裏側探検隊 各日先着20名

参加者全員にアニマルランドカードプレゼント♪

日・祝 14:30～

(裏側探検隊がある日曜日は前日の土曜日に変更)
ワンポイントガイド

動物の解説を飼育スタッフがおこないます

4月3日(水) 臨時開園

5月1日(水) 臨時開園

5月7日(火) 振替休園

8月14日(日) 臨時開園

※今号より年2回の発行となります

動物たちのエサの時間

キツネザル	毎 日 10:00～
リクガメ	毎 日 10:30～
チンパンジー	毎 日 13:30～
フラミンゴ	毎 日 14:00～

※ 動物の体調により中止になる場合があります

表紙「エリマキキツネザル」

2019年4月1日発行

発行・わんぱーくこうちアニマルランド

〒780-8010 高知市棧橋通6-9-1

TEL088-832-0189 FAX088-834-0929

Eメール kc-171204@city.kochi.lg.jp

編集 久川智恵美

<http://www.city.kochi.kochi.jp/deeps/17/1712/animal/>
アニマルランドニュース 4, 10月の年2回発行
ホームページでも配信中

わんぱーくこうちアニマルランド

検索